



いざという時に備えて

赤十字救急法講習会

いざという時を想定し、救急法を学ぼうと、赤十字救急法講習会（日赤日野町奉仕団飯島好江委員長）が、2月24日、山村開発センターと老人福祉センターで開かれました。講習会には、同奉仕団会員ら約35人が参加。日本赤十字社鳥取県支部の指導員を講師に招き、救急法を学びました。参加者は、指導員の説明を真剣に聞きながら、気道確保、回復体位などの心肺蘇生法の基本手当てを学び「実際にやってみると難しい。日ごろの訓練が必要」などと話していました。



実際に救助法を試してみる参加者

昨年までは、黒坂を会場に開かれていましたが、多くの人に学んでもらおうと、今年は根雨地区・黒坂地区の2会場で開かれました。

100人に終了証

おしどり学園閉講式

生涯学習の推進と親睦を図ろうと開かれているおしどり学園の閉講式が、3月14日、町公民館で開かれました。

式では、100人の学園生に終了証が手渡され、赤木政男さん（下黒坂）が「これからも健康で、多くのことを学んでいきましよう」と代表してあいさつをしました。その後は、記念撮影をしたり、懇親会が開かれ、学園生たちは、1年間の思い出などを語り合っていました。

おしどり学園は、町内65歳以上の人を対象に毎月1回開かれ、生花、料理、グラウンドゴルフなど専門グループ講座に分かれて学習しています。



閉講式には70人の学園生が参加

夜間の外出には反射材を着用して

町交通安全母の会が訪問指導

高齢者の交通安全意識を高めようと、3月2日、町交通安全母の会（佐々木周子会長）が、黒坂1区から7区の高齢者宅を訪問し、交通安全を呼びかけました。

この日は、母の会会員、交通安全協会など約25人が参加。同地区の65歳以上の高齢者100人の自宅を訪問し、反射タスキやチラシなどを手渡し

「夜間の外出はとても危険です。明るい服装や反射材などを身につけ、交通事故に気がつくてください」と反射材の使用方法などをていねいに説明しました。

訪問先の石田勝茂さん（黒坂）は「最近、反射材着用意識が薄れていた。これから、交通事故防止の意識を高めて行動したいです」と話していました。

県内では、交通事故における高齢者の占める死者割合が増加しています。その多くの被害者は、反射材を着用していませんでした。

母の会では、今後も町内の地区ごとに訪問指導を実施し、高齢者が事故にあわないよう活動を広げていくことにしています。



一人ひとりに反射タスキの着用方法をていねいに説明